

中城湾港泡瀬地区環境保全・創造検討委員会  
平成17年度 第1回 比屋根湿地・泡瀬地区海岸整備専門部会

日時：平成17年12月15日(木) 13:30～16:30  
場所：沖縄市産業交流センター 大研修室

<議事概要>

委員交代の報告について

吉田朝啓委員に代わり、小野尋子委員の就任が了承された。

平成16年度第3回前回専門部会、前回委員会における指摘事項とその対応について

- ・ 了承された。

これまでの経緯のまとめと今後の予定について

- ・ 了承された。

平成17年度比屋根湿地・泡瀬地区海岸現地調査結果(夏季)について

- ・ 詳細かつ面的に調査していることは評価できる。
- ・ 一年を通じた湿地の浄化能力を評価するためには、雨水と海水の流入・流出の関係をパターン分けして検討することが重要である。
- ・ 冬期の調査にあたっては、潮位の影響を取り除くために、降雨の時間を含めて25時間の調査を行うことが望ましい。
- ・ 湿地が形成されて以来、今日まで土砂の捕捉が行われていることから、メンテナンスをしなければ、再び陸地化することを念頭に置いた上での整備が重要である。
- ・ 現在海水が行き渡っていない湿地の北側にも海水が行き渡る方よう工夫することにより、浄化機能や生物生息環境が改善されると思われる。
- ・ サンエー付近の道路は大雨時に冠水することから、北側カルバートとの関係を含め対応を検討して欲しい。

比屋根湿地の「場」としての機能把握・評価及び具体的施策(案)について

- ・ 現在最も地盤が高い場所を広く残し、野鳥の餌となる実をつける木(アコウ等)を植えることを検討して欲しい。
- ・ 海水の流入は、ボックスカルバートからだけでなく、地下の砂礫層を通じて浸出する可能性を検討して欲しい。
- ・ 礫間接触法等の浄化機能を検討しているが、メンテナンスが必要であり、注意が必要である。
- ・ トカゲハゼの生息する場所については、比屋根湿地からの泥質の供給が行われており、ある程度の泥質の流出は必要である。

- ・ 保存する場所と整備する場所を分けることは理解できる。整備する中央部の水路の南側は、マングローブが進出してくると思われ、浄化機能を維持するための管理をどうするのが重要である。
- ・ 雨水貯留池（下池）について、生物の生息環境等に配慮し、最終的な地盤高等については、今後検討していく。
- ・ 大きく成長したマングローブを伐採し、炭化させて浄化施設として有効活用すること等を検討してはどうか。ただし、沖縄においては、これ以上大きくなることは考えられないことから、有効かどうかも含めて考えるべきである。
- ・ 今後、冬期の調査結果を受けて、整備のあり方を柔軟に検討することが必要である。
- ・ ヨシ原の浄化機能としての有効性を検討する必要がある。また、植物等の生育のためには、整備後の塩分の分布を検討していく必要がある。
- ・ 流量が安定している河川では河川生態系が維持されて水質浄化能力が期待できるのに比べると、現地の河川では水量の変動が大きい。これを改善するために、住宅の下水道接続率の向上を目指す事のほかに、雨水を一時的に貯蓄して時間をかけて流すなど河川の流量を安定させる工夫もあっても良いのではないかと。
- ・ 維持管理の継続については、地域住民の関わりが大きくなることから、今後の取り組みが重要である。行政との連携を図っていくことも重要である。
- ・ 湿地の管理のため、日頃から湿地に親しめるような工夫を取り入れるべきとの意見がある一方、人の立ち入りが野鳥の生息に悪影響を与えるとの意見があり、今後の課題とされた。
- ・ ヒイラギギクについては、今回の整備で可能な限り除去するべき。

#### その他

- ・ 特になし